

みずほCustomer Desk Report 2019/11/25 号(As of 2019/11/22)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	108.69
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	108.58	1.1065	120.15	1.2919	0.6788
SYD-NY High	108.73	1.1087	120.48	1.2927	0.6803
SYD-NY Low	108.48	1.1015	119.69	1.2822	0.6781
NY 5:00 PM	108.66	1.1021	119.72	1.2835	0.6785
NY DOW	27,875.62	109.33	日本2年債	-0.190	1.00bp
NASDAQ	8,519.89	13.67	日本10年債	-0.090	2.00bp
S&P	3,110.29	6.75	米国2年債	1.6246	1.70bp
日経平均	23,112.88	74.30	米国5年債	1.6232	0.51bp
TOPIX	1,691.34	1.96	米国10年債	1.7698	▲0.51bp
シカゴ日経先物	23,170.00	80.00	独10年債	-0.3605	▲3.15bp
ロンドンFT	7,326.81	88.26	英10年債	0.7040	▲4.90bp
DAX	13,163.88	26.18	豪10年債	1.1030	3.10bp
ハンセン指数	26,595.08	128.20	USDJPY 1M Vol	5.23	▲0.13%
上海総合	2,885.29	▲18.35	USDJPY 3M Vol	5.71	▲0.07%
NY金	1,463.60	0.00	USDJPY 6M Vol	6.28	▲0.04%
WTI	57.77	▲0.81	USDJPY 1M 25RR	-1.10	Yen Call Over
CRB指数	180.37	▲0.36	EURJPY 3M Vol	6.23	▲0.12%
ドルインデックス	98.27	0.28	EURJPY 6M Vol	6.65	▲0.15%

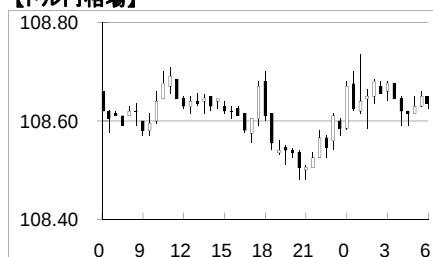
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
11月22日	08:30	日 全国コアCPI	10月 0.4%	0.4%
	23:45	米 マークイット製造業PMI・速報	11月 52.2	51.4
11月23日	00:00	米 ミシガン大学消費者マインド・確報	11月 96.8	95.7

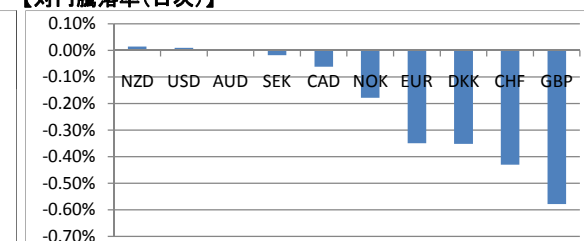
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
11月25日	18:00	独 IFO企業景況感指数	11月 95	94.6
	18:00	独 IFO期待指数	11月 92.5	91.5
	18:00	独 IFO現況指数	11月 97.9	97.8
	22:30	米 シカゴ連銀全米活動指数	10月 -0.2	-0.45

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 英国総選挙の行方

きたる英国の総選挙が実施される12月12日にむけて、各党は選挙運動を開始している。かかる中、テレビ討論会がBBCをはじめ各局で予定され、特にその結果は支持率に直結することから大いに発言は注目される。特に20日に行われた保守党ジョンソン党首と労働党コービン党首による、2大政党のテレビ討論は約4年ぶりであった。Yougovによる最新の支持率は、保守党が44%に対し労働党は30%と今年1月から支持率が逆転してから一貫して有意を保っている。党首別の支持率を見ても、ボリス・ジョンソン首相が44%に対しジェレミー・コービン党首の支持率は22%とダブルスコアの模様。このまま順当に行けば、ジョンソン首相率いる保守党が過半数を獲得するとの見方が多い。仮に総選挙で保守党が過半数を取っての勝利となると、2020年にブレグジットが実現することになる。このシナリオであれば、ポンドはソフトブレグジットを好感し反発が想定される。一方で、過半数を奪取できない場合も十分に考えられる。2017年の選挙戦でも、解散直後の保守党の支持率は労働党を上回り、その差は現在よりも大きかった。しかし、選挙戦終盤までに保守党の支持率は急落したことで、結果的に過半数奪取には至らずハンガース・パラメント状態となってしまったのである。この場合、保守党がブレグジット党と連立を組むことが予想され、合意なき離脱リスクが再浮上。引き続き不透明感の高い情勢が継続し、ポンドには向かい風となる。いずれにしろ、12月12日の総選挙及びそれまでの支持率の推移には目が離せない。(原田)

東京	東京時間のドル円は108.58レベルでオープン。仲値にかけては、週末を控えた実需の買いを受け108.71まで上昇したものの、市場の関心が引き続き米中間連のニュースに集中する中、新たなヘッドラインが見られなかったことや、日経平均株価も後場は上値重く推移したことから、ドル円も狭いレンジで上値重く推移し108.62レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、108.62レベルでオープン。ロンドン時間朝方には108.70まで上昇するも東京時間高値が意識され、その後は動意に乏しく推移。108.57レベルでNYに渡った。ポンドは、1.2928レベルでオープン。11月の英PMIが製造業、サービス業ともに冴えなかったことを受けてポンド売り優勢となり、1.2851まで下落した後、1.2861レベルでNYへ渡った。
ニューヨーク	108.57レベルでNYオープン。朝方はトランプ大統領の香港人権法案に対し、大統領拒否権の行使を示唆するような発言が伝わり、フェーズ1の合意が近いことが繰り返されるがドル円の反応は限定的となるものの、米11月製造業、サービス業PMIが予想を上回ったことや、続いて発表された11月ミシガン大学景況感指数が、株価の持ち直し等を背景に予想を上回り、速報値から上方修正されたこともあり、108.70まで戻す。その後ドル買いが継続し108.73まで戻すが、108.80付近では売り意欲が強く、108.59まで反落する。正午前になり、米連邦通信委員会(FCC)が、米通信会社が中国通信機器大手2社の通信設備を使用することを決定したが、先月から報道されていたことからドル円の反応は限定的となる。午後は、週末を控え、方向感のない取引が続き、108.66レベルでクロスした。一方、カタルニア新ECB総裁が着任後初めての公の場でスピーチで、「欧州には新たなポリシックスが必要」と発言があったことから一旦1.1087まで買われる局面があったものの、ユーロ圏サービスPMIが引き続き低迷していることから1.1047まで反落し、1.1056でNYオープン。朝方は狭いレンジでの推移が続くが、徐々にドル買いが優勢となり、1.1027まで下落する。午後ドル買いが継続したことから、軟調な推移が続き、1.1015まで下落し、1.1021レベルでクロスした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 原田・小野崎 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ベア

ブル	ベア
11	9